

# Q. 高校生が原発を視察することをどう 思いますか？ ～帰還困難区域出身の教職員～

A. なぜ高校生が原子力発電所を見に行くのか、という部分がわからない。  
原発は見世物ではない、という想いもある。

B. みんながみんな辛いことを抱えていたにも関わらず、避難先で声を上げることはできなかった。なぜなら、「お金をもらっているのだからいいでしょう」という声は本当にどこにいても聞こえてくるからだ。たとえ避難先で出会った避難していない人に話したとしても、結局のところ自分のストレスを増やすだけだった。

とにかく原発には関わりたくない、という想いが強くある。だから私は賠償請求も極力したくない。とにかく原発事故に関わりたくない今、声を上げよう、情報発信をしようとは思わない。よって原発を見ることに全く意義を見いだせない。夫婦ともに「なぜ行くのか？」と強い疑問を持っている。

C. 様々な人の想いや今後数十年続く壮絶な廃炉作業している原発の様子を知ったこの先に、あなたたちは何を大切にし、そして生きていくのかを是非考えてほしいと思う。

これまでの勤務校

会津

中通り

浜通り

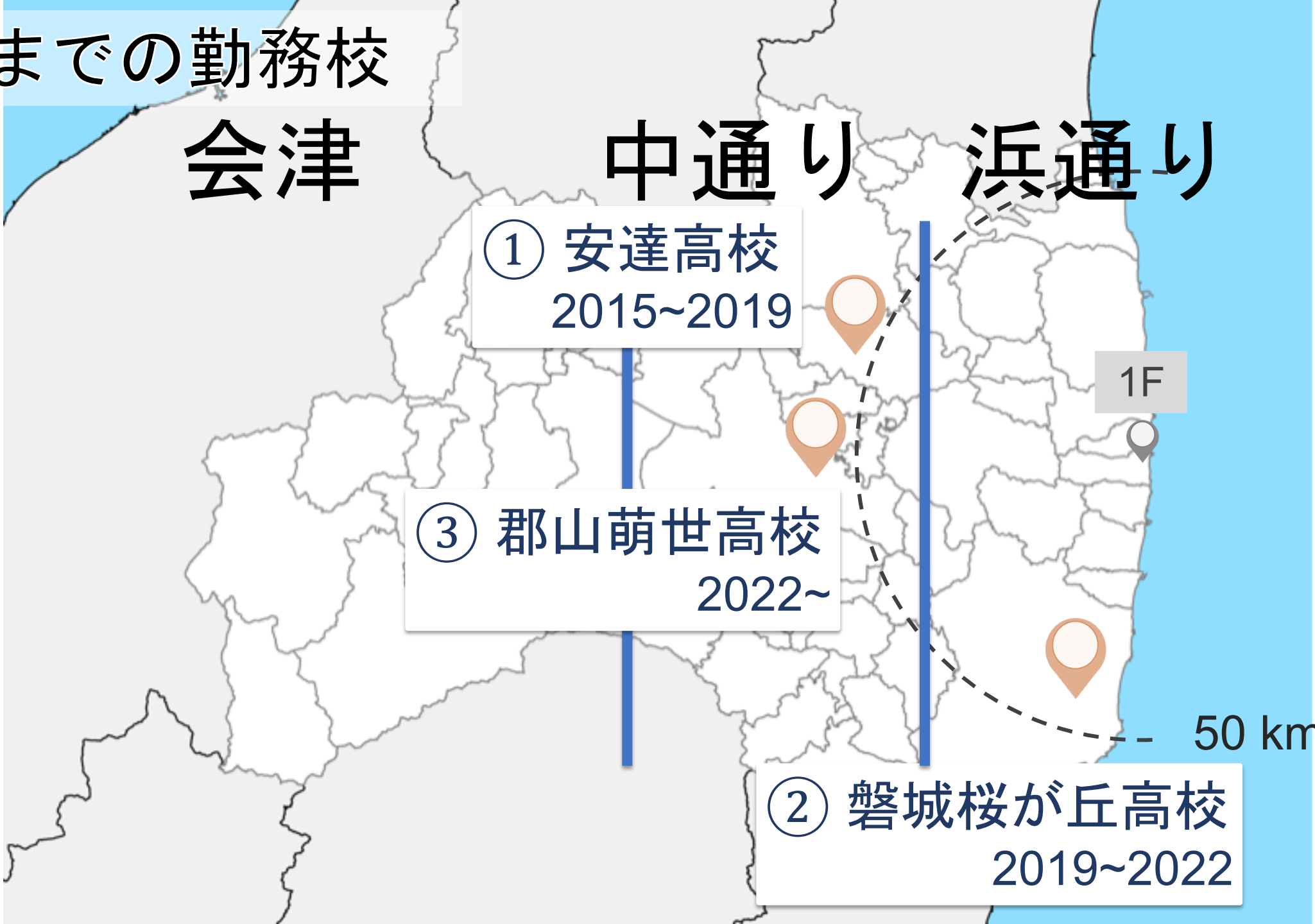
① 安達高校  
2015~2019

③ 郡山萌世高校  
2022~

② 磐城桜が丘高校  
2019~2022

1F

50 km



# これまでの勤務校

① 安達高校  
2015~2019

③ 郡山萌世高校  
2022~

② 磐城桜が丘高校  
2019~2022

1F

50 km

避難してきている  
県外避難を経験した  
親族に東電社員がいる

生徒たち

# 福島で学ぶ福島

メールアドレス

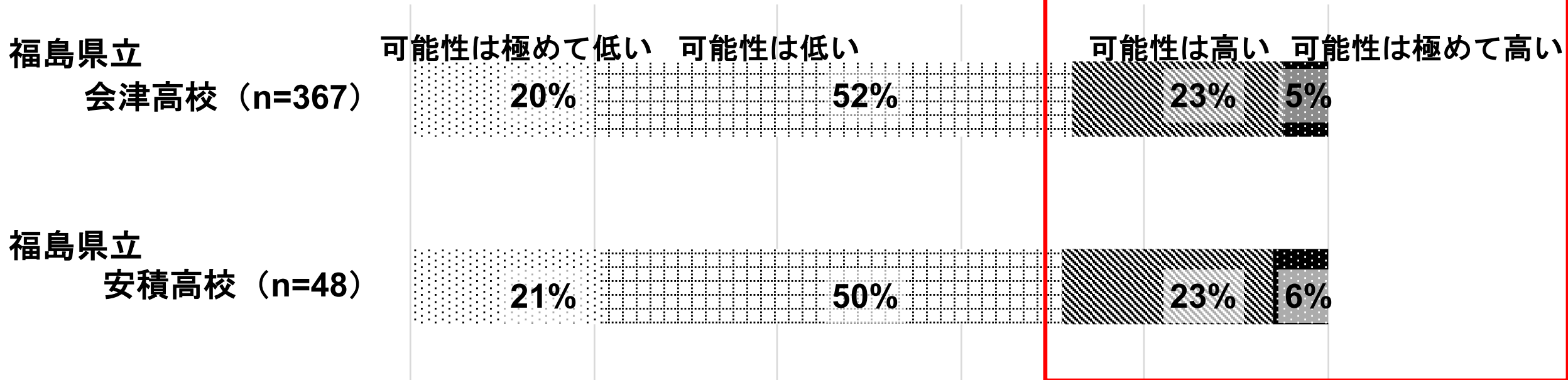


福島県立郡山萌世高等学校 通信制 石井 伸弥

[ishii.shinya@fcs.ed.jp](mailto:ishii.shinya@fcs.ed.jp)

2023/08/05 sat 放射線教育関係者意見交換会

# 現在の放射線被ばくで、後年に生じる健康被害（例えば、がんの発症など）が福島県の人にどのくらい起こると思いますか？(2018年)



千葉淳, 物理教育67(4), P.236より著者作成

30%前後の福島の高校生が、後年影響の可能性が高いと回答  
2020年時点でも同様の数値

本日の報告：統計データ ⇔ 個々の実態 の間を考える

# 福島県の高校で行われている学習テーマ

第一原発の廃炉

まちづくり

生体影響

中間貯蔵施設

メディア

物理的性質

再生土壌処理

風評被害

当時の記憶

避難区域の景色（故郷）

震災関連死

社会的分断

ALPS処理水

行政

津波の被害

視察 ↔ 校内

講義 ↔ 探究

授業 ↔ 課外

扱うテーマと扱いは様々

※5教科の授業に取り入れているのは1校

# 学習テーマ（ver.石井・この1年・生徒1名）

第一原発の廃炉

まちづくり

生体影響

中間貯蔵施設

メディア

物理的性質

再生土壌処理

風評被害

当時の記憶

避難区域の景色（故郷）

震災関連死

社会的分断

ALPS処理水

行政

津波の被害

視察 ↔ 校内

講義 ↔ 探究

授業 ↔ 課外

視察と対話をベースとして、学びたいものは生徒に任せる

# これまで(8年間)の生徒たちの探究テーマ例

- 11年間の処理水・汚染水の報道傾向 ←Now
- 事故直後の新聞報道の変遷から見る風評被害の変遷
- 海外から見たFukushimaのイメージ
- Googleのサジェスト検索から考えるネット上の福島

→メディア・社会心理学に興味を持つ生徒が多かった

Q. 君たちは、福島のマイナスな情報を得て、  
傷ついたりしないの？



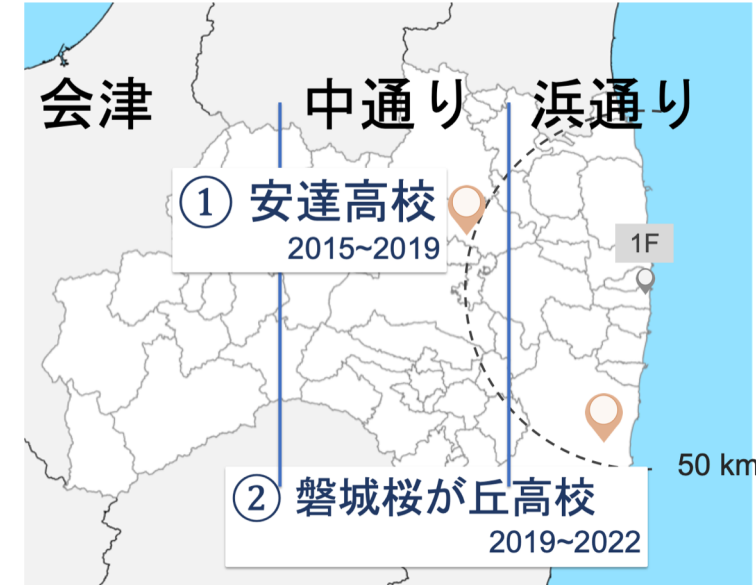
# 生徒たちの回答 ～卒業生に確かめてみた～

## 安達高校（中通り）

- 傷ついてないですね。  
中通りと浜通りの違いではないですか？  
三国に分かれているイメージです。

## 磐城桜が丘高校（浜通り）

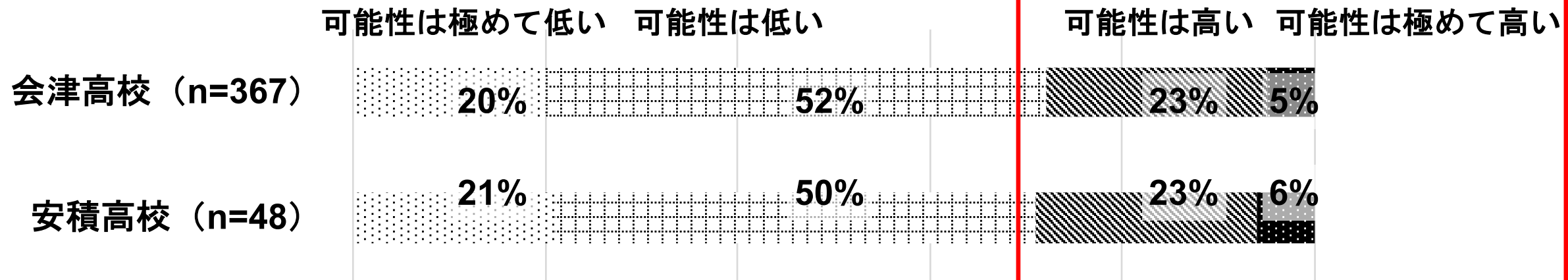
- 言われてみて初めて気づきました。  
傷ついてないです。なんというか、それは別というか...



報道される「福島」≠自分の住む「福島」  
これらが無意識に使い分けている

# 改めて、この結果について

現在の放射線被ばくで、後年に生じる健康被害（例えば、がんの発症など）が福島県の人にどのくらい起こると思いますか？(2018年)



福島県の人→誰の顔を思い浮かべているのか？

- ① 日常生活の中でふと不安を覚える瞬間がある高校生が3割
- ② 普段は不安はないが、あえて聞かれると「なんとなく」不安になる高校生が3割

どちらだろうか？

# 私たちの予想 ～県立安積高校 原 尚志 先生との議論～

現在の放射線被ばくで、後年に生じる健康被害（例えば、がんの発症など）が福島県の人 →自分を想定してはいないにどのくらい起こると思いますか？(2018年)

「自分かもしれない」と思うならば、自分が受けた線量と、リスクについて調べる生徒が出てきても良いのでは？

「実は不安な気持ちがあった」という声があっても良いのでは？

日常生活で不安はないが、あえて聞かれると「なんとなく」不安になる高校生が3割 と考えている。

- 本当に大丈夫？という問いに揺さぶられ、一時的に不安を思い出す
- その後、その不安は継続しない（卒業生談）

# 私たちの予想とインタビュー結果とのずれ

Q. 自分ごととして回答していないから、「高い」に丸をつける？  
では「あなたの後年影響のリスクは高いか」だったらどう？



だったら「低い」に〇をつけるのでは？

A. このように文言が変わっていたら、急に不安になるかも。  
頭では大丈夫と想着いても「高い」に変更してしまいそう...  
なぜ大丈夫なのか、今はまだ自分の言葉で説明できない。

福島の高校生は煽りに弱い。

自分のこととして答えていたわけではないようであるが、  
自分のこととして答えていたとしても結果は同様か。

# 福島の高校生は福島について

「なんとなく」 わかっている

「無意識的に」 安心である

不安である

復興している

復興していない

(と思っている)  
ように見える

回答に量的根拠を持っている高校生は見たことがない

今後、生徒の（ともすると教員の）この姿に  
対峙していかねばならない

# 最後に：福島の高校生は

「なんとなく」  
「無意識的に」

を何気なく揺さぶられる時間が必要



~~「君たちはわかっていない！」~~

風評と戦っている人の姿

福島や日本の未来を描いている人の姿

県外で福島を一生懸命学んでいる同年代の姿

を見てほしい

今後、福島と全国の子供たちの交流が活発化していけば幸いです。視察・交流について何かありましたらお気軽にご連絡ください。

メールアドレス

石井 伸弥 [ishii.shinya@fcs.ed.jp](mailto:ishii.shinya@fcs.ed.jp)

